



2023年2月13日

各 位

会 社 名 株式会社 Birdman
代 表 者 名 代表取締役社長 伊達 晃洋
(コード番号：7063 東証グロース)
問 合 せ 先 取締役 CFO 兼 CHRO 三橋 秀一
(TEL 03-6865-1322)

第2四半期累計期間連結業績予想と実績との差異 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2022年8月12日に公表いたしました2023年6月期第2四半期累計期間(2022年7月1日～2022年12月31日)の連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

併せて2023年2月13日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2023年6月期(2022年7月1日～2023年6月30日)の通期の連結業績予想についても修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2023年6月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績の差異(2022年7月1日～2022年12月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|----------------------------------|--------------|------------|------------|--------------------------|----------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 1,566 | 百万円 103 | 百万円 100 | 百万円 75 | 円 銭 14.70 |
| 実績(B) | 1,862 | 140 | 133 | 100 | 19.74 |
| 増減額(B-A) | 296 | 37 | 33 | 25 | |
| 増減率(%) | 19.0 | 36.8 | 33.1 | 34.5 | |
| (参考)前期第2四半期実績 (2022年6月期第2四半期) | — | — | — | — | — |

注) 当社は、2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。

そのため、当該株式分割が2023年6月期の期首に行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算出しております。

当社は、2022年6月期第2四半期においては、連結四半期財務諸表を開示していないため、2022年6月期第2四半期(累計)の実績の記載をしておりません。

2. 2023年6月期通期連結業績予想数値の修正（2022年7月1日～2023年6月30日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------------------|--------------|------------|------------|-------------------------|----------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 3,800 | 百万円 340 | 百万円 335 | 百万円 251 | 円 銭 49.18 |
| 今回修正予想(B) | 4,096 | 378 | 364 | 272 | 53.17 |
| 増減額(B-A) | 296 | 38 | 29 | 21 | |
| 増減率(%) | 7.8 | 11.2 | 8.7 | 8.4 | |
| (参考) 前期実績 (2022年6月期) | — | — | — | — | — |

注) 当社は、2023年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。

そのため、当該株式分割が2023年6月期の期首に行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算出しております。

当社は、2022年6月期においては、連結財務諸表を開示していないため、2022年6月期の実績の記載をしておりません。

3. 修正の理由

今年度のおわが国経済は、資源価格の高騰や円安による原材料費等の物価上昇、後退が懸念される経済の動向等、将来に向けた不確実性が増す状況で推移しており、当社グループの業績もこのような社会情勢の影響を受ける可能性を反映して、保守的に業績予想を立てておりました。

このような前提においてMX事業は、2022年12月21日に公表したとおり5D LIVEの開催を中止いたしました。この影響を、連結業績、財政状態への影響を軽微に留めることができました。その一方で、MX事業として過去最高の売上高を計上した案件や複数の大型案件の影響もあり、結果として当初の想定を上回る売上高、セグメント利益を計上することとなりました。

また、EX事業は、当社主導でのメディアや音楽フェスへの出演に伴う露出機会の増加、効率的な事業運営の徹底により、ライブイベント収入、グッズ販売、そして、ファンクラブ会費等が当初の想定を上回り、結果として当初の想定を上回る売上高、セグメント利益を計上することとなりました。

そして、上記の影響を受けつつも、効率的な業務分担と稼働管理の徹底にともない人件費の上昇を抑制し、加えて、全社的に可能な範囲でのコスト削減を推進することにより、当初の想定を上回る営業利益等を計上することとなりました。

通期の連結業績予想につきましては、第2四半期累計期間までの好調な連結業績の状況を鑑み、上記のとおり修正いたしました。尚、下期の業績見通しにつきましては、経済状況の不透明感などを勘案し、期初時点における計画から増額変更しておりません。

(将来に関する記述等についての注意事項)

上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる場合があります。

以上